

## 研究 成 果 報 告 書

(ふりがな) わたなべ まお

氏 名 渡邊 真魚

現 職 (所属名、職名等) 福島県教育庁教育総務課 管理主事

修了又は卒業年月、専攻又は専修コース名 平成15年度修了

学校教育専攻発達臨床コース (生徒指導総合)

研究テーマ 道徳教育における指導と評価

～エピソード評価の試案とその可能性～

## 1 はじめに

特別の教科「道徳」が始まる。教科化にあたり、「考え、議論する道徳」への質的変換を目指し、いじめの問題への対応の充実や発達の段階を踏まえた指導方法の改善のため、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫とその評価が問題となっている。これまで、道徳の時間といえば、「道徳的価値の押しつけはいけない」、「1時間で生徒の道徳性は計れない」、「授業の評価は、卒業した後にわかるもの」等、授業の評価と道徳性の評価が混在した形で議論されていた。もちろん、道徳の評価は数値では行わないのだが、こうした考えが、道徳の時間の指導方法や評価を曖昧なものにしていたのではないだろうか。

そこで、本研究は、教科化に伴い、評価を考える上で、生徒の道徳性を育む視点から、授業者は学習者の何に注目しているかを洗い出し、学習者のどのような場面を評価しようとしているのかを洗い出し、道徳科では、何を記述するのか、その評価方法を提案する。

## 2 先行研究に見る数値によらない評価

数値によらない評価には、ポートフォリオ評価やパフォーマンス評価等がある。

ポートフォリオ評価は、児童生徒の学習の過程や成果などの記録や作品を計画的にファイル等に集積し、そのファイル等を活用して児童生徒の学習状況を把握するとともに、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を示す評価方法である。

パフォーマンス評価は、知識やスキルを使いこなす(活用・応用・統合する)ことを求める評価方法である。解説文やレポート、作品やスピーチ、プレゼンテーション、協同での問題解決、実験の実施といった実演(狭義のパフォーマンス)を評価することができる。

ポートフォリオによる評価は、学習者が自らの授業を振り返ることができる評価であるが、自己の成長を主観的にしか振り返ることができない。パフォーマンス評価は、協同での問題解決や実演といった学習活動を設定することで、客観的な評価が期待できるものの、生徒の道徳性を育む評価となると、ルーブリックがもつ基準が道徳性にはなじまない。

そこで、道徳科における学習活動のみをルーブリック化し、各段階で気付いたことを、現在の児童生徒のよさをエピソードとして累積し、エピソードとしてフィードバックすることで、相互を補完した道徳科の評価、すなわち個別のエピソードをもって道徳科の評価を試案する。

### 3 エピソード評価

エピソード評価とは、児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード（挿話）を累積することにより行う評価方法である。エピソードとは「①本筋と直接的には関係なく物語中にはさみ込まれるまとまりのある小話。挿話。②ある人やある物事についての面白く、短い話。逸話。」であるが、エピソード評価では、学習者の成長過程における挿話とし、暫定的に授業時間に発話される記録や記述したものを「短期エピソード」、生活の中での言動や記述を「長期エピソード」として集積する。

### 4 研究計画

以下の手順で、エピソード評価の在り方を検証する。

- (1) 道徳授業を行い、個別のエピソードを収集する。（事例1）
- (2) エピソード集積のための視点を洗い出す。（「表1」の作成）
- (3) 「表1」を用いて、授業者にインタビューする。（事例2・3・4）
- (4) 「事例2・3」からエピソード評価の可能性を探る。（「表2」の作成）

### 5 道徳授業を行い、個別のエピソードを収集する。（事例1）

- (1) 授業概要（読み物資料を活用して道徳的な場面を話し合い解決する授業）

野球部に所属する主人公が、三年間、なかなか活躍できない自分が部活動をやめずに続けることができた理由を話し合い、考えを深める授業を行う。（資料「九番バッター」A-（4）希望、勇気、強い意志『明日をひらく』東京書籍）

- (2) 生徒エピソード

#### ○授業前

- ①二者面談（4月）授業者の「家族へのメッセージはありますか」の問いかけに、「〇〇（部活動）がうまくなるようにお守りを作ってくれてありがとう」を伝えてくださいとのこと。家庭訪問で母に伝えると約束。後日、母はこの話をとても喜んでいた。
- ②「うまくできない」と部活ノートに書かれた手紙。（5月中旬）今の私に、また〇〇（部活動）ができるでしょうか？今の私の心の中は、ふかくきずついていて、部活のことを考えると、こわくてたまりません。先輩たちの顔や目をみると私はできないんだって思っています。（中略）こしをひねる、てくびを使わない、先輩たちに教えてもらったことをやっているのにうまくいかない私がくやしくてきらいです。
- ③早退した翌日の本人との話。Aさんは「うまくできない自分が悔しい。」と主張していたものの、授業者が得意なこと（好きなこと）・苦手なこと（嫌いなこと）を分けながら話を聞くと、苦手なものの中に「先輩」という言葉があり「先輩が怖い。」ことが判明した。Aさんの気持ちに共感するような対応をし、思い切って先輩に「うまくなりたいためにはどうすればよいかを相談する。」ことを提案した。翌日欠席する。
- ④欠席した翌日の手紙。今日はありがとうございました。先生の言葉がとてもうれしかったです。しかし私は自分をせめすぎたのか心のきずがなかなかとれません。でも先生が言ってくれたことをしんじてがんばっていきたいです。
- ⑤先輩に相談した翌日のノート。少しだけ不安がとびました。先生、先輩、ありがとうございました。今日は少し楽しかったです。

#### ○授業中

- ①初発の感想。私は、この主人公がどんな気持ちだったかよくわかった。バントのお手本にされてコーチにほめられる気持ちがとてもわかった。悔いは残らないという文がどんなことがあってもあきらめなかったからだと思う。
- ②終末で日常化を図るための発問。授業者の「あきらめないためにはエネルギーがいる。そのためにはどんな力が必要かな。」の発問に次々と手が挙がり「努力」「希望」「やる気」「あきらめない」「自信」「才能」「仲間」「協力」「あきらめない」と発言が続く中、Aさんもしっかりと挙手で指名を受けて「めげない気持ち・がんばる力」と答えていた。
- ③「あきらめないためにはどんな力が必要かな」の問いかけに対する挙手発言。「めげない気持ち、がんばる力。」
- ④「今日の活動で気づいたこと、感じたことをまとめましょう。」への記述。私は主人公の気持ちがよく分かり、今の私みたいな気がした。ほめられた気持ちなど、今の自分みたいだと思います。私も主人公みたいにあきらめない気持ちやむだにしない心をたくさん持ちたい。

#### ○授業後

- ①授業後、教卓で後片付けをしているとき。Aさんが「先生、小説の内容を変更してもいいですか。」と話しかけてきた。「何かアイデアが浮かんだの？」の問いかけに、うれしそうに「私、〇〇（部活動名）をする女の子を書きます。私が主人公になる物語です。」と話してくれた。「物語の主人公は最後には成長するのよね。それはとても楽しみ。」との返事にうれしそうにしていた。
- ②5月のエピソードカード。授業者の問い「今月あなたは何かできるようになりたいですか」への記述。Aさんは、目標に「陸上大会で1位になるための練習」を書く。「今月、あなたは何を学びましたか。何かできるようになりましたか。」への記述では、「1位になるためのひっしの練習はきついこともあったががんばりました。本番ではドキドキしており、何が起きるか分からないじょう況だったが、走ってみると人をかぞえるくらいのおゆうをもっていた。練習をあきらめなくて良かったと思う。ゴールしたときは、最後までやりとげたという気持ちがたくさんあった。」と記されていた。

#### (3) 総合所見

授業の計画を意識したのは、手紙をもらったとき。本時の実践では、中体連を機に「九番バッター」を取り上げ、3年後に部活動を続けてよかったと思う主人公に共感させようと考えた。振り返りで「めげない気持ち、がんばる力」の発言後、工夫・改善、気づきで「あきらめない気持ちやむだにしない心をたくさん持ちたい。」という記述が見られた。さらに、授業後に「小説を書く」という行為で自分自身の生き方を見つめ直そうということにつながった。授業者は、生徒の事実に意味づけする作業に立ち会うこと、個に応じた新しい行為を提案することが大切であり、その上で、生徒の「ものの見方を変えること」「自分の気持ち表す力」も身に付けさせなければならないことを実感した。

#### 6 エピソード集積のための視点を洗い出す。（「表1」の作成）

事例1を時系列で表記すると、授業前に5つ、授業中に4つ、授業後に2つの記録があった。そこで、時間帯を3つに区切って、授業前と授業後は生活エピソード、道徳の時間は授業エピソードとする。また、生徒自身の発言や記述によるものか、教師の観察あるいは助言（働きか

け)に分けて、6つのマトリックスで1シートとした。

氏名	生徒発言・記述	教師観察・助言
長期エピソード 生活(P)		
短期エピソード 授業(D)		
長期エピソード 生活(CA)		

「表1」エピソード累積表

7 「表1」(エピソード集積表)を用いて、授業者にインタビューする。(事例2・3・4)

次に、「表1」のマトリックスを時系列で追いながら授業者へのインタビューを行った。

(1) 事例2

①プロフィール

○授業者 教職年数23年 M教諭(女性)

○対象生徒 中学1年生 Bさん

②授業計画

○資料 「明かりの下の燭台」 1-(2) 希望、勇気、強い意志(『中学道徳 心  
つないで3』教育出版)東京オリンピックの日本バレーボールチームを支え  
た鈴木恵美子さんの話。

○学習活動 読み物資料を使って話し合い考えを深める活動

③生徒エピソード(Bさん)

○生活エピソード(M教諭談)

ア:保護者より、部活動の振り返り日記が負担になっているとのこと。詳細に記入しないと顧問からOKが出ず、追い込まれているらしい。部活動を通してBさんが成長しているを感じているので難しいところ。

イ: Bさんは、顧問をととても尊敬しており、道徳の授業でも、顧問の語りを授業内容に重ねて発言することが多く、それをきっかけに考えを広げ深めるクラスメイトも多い。「リレーはみんなの気持ちが一つにならないと走れないから…」の発言に、生徒一同「おおおお…」とどよめき、一同が納得する場面があった。

ウ: 私(担任)から保護者へ、先日の道徳の授業の様子を伝える。Bさんには自分を追い込みすぎないよう助言。Bさんは、非常に真摯に部活動に取り組んでいた。

エ: 顧問とも、道徳の時間の発言や感想のなかに顧問の言葉が出てきたり、部活動でのエピソードが綴られていたりしたときは連絡を取り合い、顧問と担任とが連携しながらBさんを見守っている状況である。

○授業エピソード(M教諭談)

カ: Bさんはバレーボール部の部長と日ごろから親しいこともあり、自由に立ち歩いて意見交換する場面では、彼女と盛んに意見を交わしていた。

キ: Bさんの感想「キツくても何でも、ネガティブワードを発さず、毎日笑顔で頑張り続けられる、その姿にすごく胸を打たれました。私とはその立場が違って、

すごく私になりたい姿なので、見習いたいです。それに、自分より相手のために。という心も誰にでもできるわけじゃないので、私もそんな人になりたいです。そして何より、一度決めたことを続けられる継続のある心が持てると、のちに人から尊敬される人になれるんだということを学びました。」

ク：一般に「明かりの下の燭台」は、集団の中の役割、を主題として実践されてきたが、最近、鈴木恵美子さん自身が納得してマネージャーを務めていたわけでないことが注目されてきており、集団の中の役割、という切り口での授業構成に抵抗を感じているとの話も聞く。そこで、鈴木さん自身の手記(「思い出の回転レシーブ」1965年)や選手から見た大松監督に関する思いをまとめたTV番組の録画などを資料に、2時間扱いで授業実践した。特に、明かりの下の燭台、を用いた授業では「強い意志」を中心価値として狙う授業構成とした。

#### ○生活エピソード (M 教諭談)

ケ：休み時間、Bさんに声をかけたところ、「(副顧問の)〇〇先生のお誕生日なんです。」とのこと。ケーキの形のカードに3年生一人一人のメッセージを記入、真ん中にローソクの絵を描き、カードを張りながら「母も手伝ってくれた」と話すBさんの姿があった。

コ：その夜、副顧問の先生にメールで報告し、彼女の成長を伝えた。

#### ④総合所見 (M 教諭談)

授業後にBさんが副顧問の先生に感謝の気持ちを届けようとしていた姿を見て、資料の登場人物に副顧問の姿を重ねていたのではないか。このエピソードを陸上部顧問の先生に口頭で報告しながら生徒の成長を分かち合うことができた。授業では、生徒の感性を上回る資料の準備が大切であり、(Bさんに対しては)ものの見方を広げる工夫が必要だった。さまざまな価値にふれさせて、別の視点を持たせることも大切であると実感した。

(2) 事例3 (紙面の都合で省略)

(3) 事例4 (紙面の都合で省略)

## 8 エピソード評価の可能性について (「表2」の作成)

生徒の感想は、「学習内容に関わること」と「学習活動に関わること」に大別された。さらに、学習内容は、「心情に関すること、判断に関すること、行為に関すること、価値に関すること」等に分けられ、学習活動は、「資料から学んだこと、活動を通して学んだこと、多様な考えに触れたこと」等に分類された。(次ページ「図1」参照)

道徳の時間に限らず、教科の時間においても、学習活動そのものが、道徳的行為の実践を発揮する場となることが多い。学習活動の評価の指針をループリックという形にするため、評価項目を学習内容(価値やねらいに関する項目)と学習活動(本時の学習スタイルから身に付けた資質・能力)の2段構成とした。

また、3つの事例からは、生徒の道徳性にどう関わる(関わった)か」「本時の学習活動で身に付けた力、身に付けさせたい力」を抽出することができた。

#### (1) 「生徒の道徳性にどう関わる(関わった)か」

- 生徒の事実に意味づけする作業に立ち会う。
- 個に応じた新しい行為を提案する。
- 生徒の感性を上回る資料の準備をする。



学 習	資質 能力	第1ステップ	第2ステップ	第3ステップ
内 容	思考力	道徳的な問題の解決に向けて、自分の思いや願いを持つことができる	道徳的な問題の解決に向けて、他者に対して思いを馳せたり、想像したりすることができる	道徳的な問題の解決に向けて、他者や集団の中で見通しを持つことができる
	判断力	自分で決めたり選択したりすることができる	自分で決めたり選択したりしたことについて、他者に理由を添えて説明することができる	自分で決めたり選択したりしたことを基に、他者や集団と合意したり提案したりすることができる
	表現力	自分の考えを自分の言葉やふるまいで表現できる	自分の考えや経験を踏まえて自分の言葉やふるまいで表現できる	他との比較や経験を踏まえて自分の言葉やふるまいで表現できる
活 動	プロセス	本時の学習活動に参加することができる	本時の学習活動に積極的に参加することができる	本時の学習活動に積極的に参加し、新しい発見をすることができる
	スキル	本時の学習活動の中で、相手に主張することができる	本時の学習活動の中で、相手の気持ちを考えながら対応することができる	本時の学習活動の中で、公の場にふさわしい対応を創造することができる
エピソード				

「表2」エピソード評価表

することは、不可能であるとの見解もある。しかし、教師にとって「道徳の時間」の魅力は、生徒の成長を実感することにある。授業で投げかけた問いを真剣に受け止め、どう考えるのか、どう生きるのかを真剣に議論し、応える姿に立ち会う時間は、授業を構想した教師にとっては、格別な瞬間である。さらに、学んだことが、実際の生活に生きて働き、実践された姿を見て取ることは、それ以上の喜びがある。最後に、すでに通知表等で児童生徒や保護者に対して書く所見の中には、児童生徒の固有のエピソードが書かれてあり、教師はそうした視点を持ち合わせていることを鑑みれば、授業者は自信をもってその子のエピソードをフィードバックしていく。これこそが、道徳科としての教科の特性を生かした評価といえるのではないだろうか。

#### 【参考文献】

- ・田中耕治（2010）『新しい「評価のあり方」を拓くー目標に準拠した評価のこれまでとこれからー』日本標準ブックレットNo.12
- ・松下佳代（2007）『パフォーマンス評価ー子どもの思考と表現を評価するー』日本標準ブックレットNo.7
- ・ダイアン・ハート（2012）田中耕治監訳『パフォーマンス評価入門ー「真性の評価」論からの提案』ミネルヴァ書房
- ・G・ウィングズ/J・マクタイ（2012）西岡加奈恵訳『理解をもたらすカリキュラム設計ー「逆向き設計」の理論と方法』日本標準
- ・遠藤 貴広（2004）「G.ウィングズのカリキュラム論における「真正の評価」論と「逆向き設計」論の展開ー「スタンダード」概念に注目してー」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第51号
- ・遠藤 貴広（2003）「G.ウィングズの教育 評価論における「真正性」概念ー「真正の評価」論に対する批判を踏まえてー」『教育目標・評価学会紀要』第13号
- ・林泰成、渡邊真魚（2017）「道徳科の評価方法としてのエピソード評価」『上越教育大学研究紀要』第36巻2号